

2. 水産資源管理総合対策事業（ホッケ）

担当者 調査研究部 室岡 瑞恵

（1）目的

ホッケは北海道では主に沖合底びき網、底建網、および刺し網で漁獲される重要な魚種である。漁獲は日本海、オホーツク海、根室海峡、少量ながら太平洋と広範囲にわたっているが、生態的な知見および漁業実態の知見はあまり多くない。近年、特に道北地域において、ホッケへの漁獲圧が高まる傾向にあり、資源の減少が懸念されている。そのため道水産試験場資源管理部門では 2007 年度にホッケ専門部会を立ち上げ、各水試が協力してホッケのより深い知見の収集を行った。

専門部会で行った調査を基礎として、本事業にてホッケ調査を継続し、効率的な資源管理手法を検討していくこととなった。

オホーツク海は道北系群の新規加入群が最初に漁獲される重要な地域である。本事業では大規模に新規加入群が漁獲される紋別において標本調査を実施し、これまで不明であった耳石による年齢査定を行い、正確な年齢組成を把握した。漁獲動向については、漁獲統計データ整理を中心に詳細な把握を行った。

（2）経過の概要

2009 年度は、本事業の 2 年目にあたり、ホッケの資源管理方策の検討に有効な生態的知見の収集・情報整理と基礎調査を行った。本事業で実施した調査の概要は以下の通りである。

ア 漁業実態調査

各漁協における漁獲量を集計し、漁獲量の推移を把握した。

イ 漁獲物年齢組成調査

紋別におけるホッケの漁獲物の体長と年齢組成を求めた。

（3）得られた結果

2009 年度の調査結果については、漁業生物の資源生態調査の結果と併せて記載する方が有効であるため、本報告書の 1. 1. 9 ホッケに記載した。よって、ここでは省略する。